



DIVAネットワークの調達について

テクノロジーサービス局

(1) 審議事項

東京2020大会の競技会場内においては、ビデオボード、パブリックスコアボード、音響システムなどの映像音声信号の伝送、インカム（運営に関わるスタッフ同士、会場内のアナウンスなどの近距離の音声通信ツール）などが必要となる。これらに必要な各種ケーブル敷設の作業を効率化・低コスト化するため、1つのネットワークに統合するソリューションとして、DIVA（FOP Data, Intercom, Video, Audio）ネットワークを調達することについて、ご承認頂きたい。

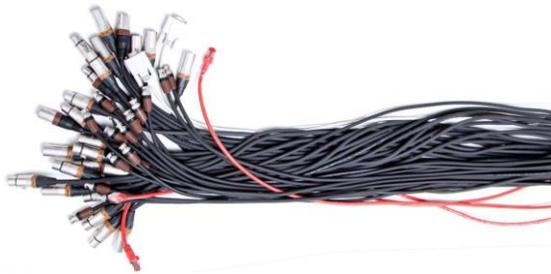
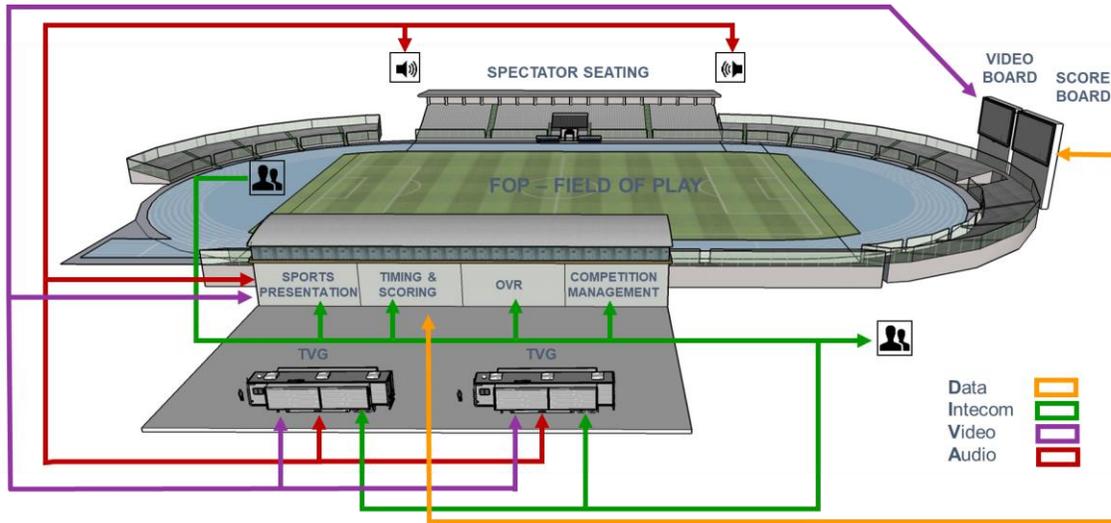
(2) 背景

- ✓ 競技会場内においてビデオボード、パブリックスコアボード、音響システム、OBSの映像機器など、複数のサプライヤーの責任範囲をまたいで、映像音声信号をつなぐケーブルをギャップケーブルと呼ぶ。これまでの大会では、複数のサプライヤーや関係者と調整しながら、大量のケーブルを敷設するために、多くの時間とコストがかかっていた。
- ✓ 上記課題について本年春より、IOCと組織委員会と合同で検討を行った結果、インターカム*1用のケーブルも含めて、1つのネットワーク（光ケーブル）に統合したDIVAネットワークとして調達することにより、ケーブル敷設および運用の効率化、低コスト化を実現できる目途がついた。
- ✓ なお、このソリューションについては、今後の大会でも適用できるTurn-Keyソリューションとして、New NormのもとIOCの戦略プロジェクトとして検討されてきたため、実現可能性評価はすべてIOCの費用負担で実施された。

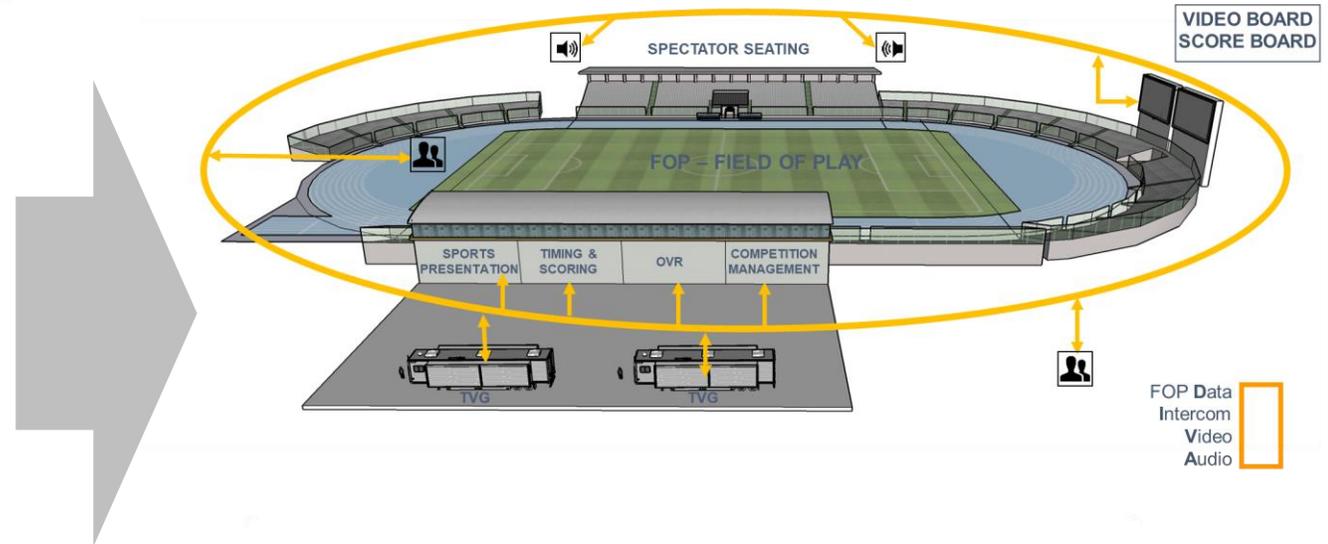
*1)インターカム：スポーツプレゼンテーションや計時計測などの運営に関わるスタッフ同士の連絡や、会場内のアナウンスなどに用いる有線による音声通話ツール

参考：DIVAネットワークの概要図

従来の会場内の
音声映像信号伝送



DIVAネットワークによる会場内の
音声映像信号伝送



従来の各機器を1対1で接続していた構成から、DIVAネットワークとして統合してケーブル敷設を行う

(3) 実施内容

✓ 調達内容

- **設計・テスト** すでに作成済みの“実現可能性評価資料”に基づき、DIVAネットワークの詳細設計を行うとともに、テストイベントなどの機会を利用して運用テストを行う。
- **大会時のサービス提供** 全競技会場において、DIVAネットワークの構築、リハーサル・大会時の運用・サポート、大会後の撤去を行う。

✓ 実施スケジュール

	2018			2019				2020			
	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12
DIVAネットワーク	実現可能性評価 IOCとの合同プロジェクト (IOCの費用負担で実施)			▲ 公示	▲ 契約	設計・テストフェーズ テストイベント			大会サービス提供 東京2020大会		

調達に先立ち、DIVAネットワークの実現可能性評価をIOCとの合同プロジェクトで実施。
 技術要件書、調達仕様書の作成、各会場の基本設計をIOCの費用負担で行った。

(4)調達方式、契約期間、 関係ステークホルダー

- ✓ 予定調達方式：一般競争入札（総合評価方式を予定）
- ✓ 予定契約期間：2019年4月～2020年10月
- ✓ 関係ステークホルダー
 - IOC：合同プロジェクトをTokyo2020と実施。
 - OBS, 関連パートナー（パナソニック、オメガ）：ギャップケーブルおよびインターカムを統合し、DIVA ネットワークとして調達することを了承済み。

※大枠合意に基づいて東京都が一部費用分担を行うため、共同実施事業管理委員会東京都作業部会に付議する。

(5) 入札における注意事項等

- ✓ OBSおよび関連パートナーとの調整を要する業務であり、スムーズに業務を進めるためには、応札者の大規模スポーツイベントの経験が条件となる。
- ✓ 海外企業による応札が想定されるが、その場合でも国内の現場工事会社や関連ステークホルダーとの間での、英語および日本語での円滑なコミュニケーションができることが条件となる。
- ✓ 審査に関し、なんらかの形で合同プロジェクトを行うIOCによる評価を反映できるスキームを調整する予定である。